

No. 1514

喜びと悲しみと

— 東 京 —

10月16日夜神宮球場でのヤクルト—阪神戦。延長10回5対5で引き分け、阪神が昭和39年以来21年ぶりのセ・リーグ優勝を果しました。

吉田監督、掛布、パース選手の喜びの胴上げがつづきます。

球場を埋めつくした五万人の猛虎ファンの歓声が神宮の森に夜遅くまでとどろいていました。

日航ジャンボ機墜落事故の東京地区遭難者追悼慰霊祭が大阪地区に引きつづき10月24日、日比谷公会堂で営まれました。

東日本地区の犠牲者154人の遺族712人を始め関係者1,400人が参列。

奇跡の生存者の一人吉崎博子さんも亡き夫と二人の子供のために祈りをささげました。事故から2ヶ月半を過ぎた今も遺族の悲しみや怒りは消えていないようです。

南極観測船のいる港

— 名 古 屋 —

明治41年、名古屋国際港として開港された名古屋港はいま、ちょっとした観光ブームに湧いています。

それというのも、昭和40年から18年間、南極観測船として活躍した「ふじ」が名古屋港ガーデンふ頭に保存され、博物館として第二の人生を送っているからです。

「ふじ」が一般公開されたのは今年の海の記念日の7月20日でこれまで20万人の人達が入場しました。

博物館の主要展示場にはヘリコプターの格納庫が利用され、南極をいろいろな型で紹介しています。又、第二次越冬隊員の船室での生活ぶりもわかるようになっています。ブリッジは航海時そのままの状況で再現され訪ずれた人達にロマンと夢を与えてくれます。